インフォメーション

ホームページをリニューアルしました。

2013年4月1日、販売子会社の統合を機に、当社ホームページをリニューアルしました。皆様により使いやすく、よりわかりやすいホームページとなるよう、全面的にリニューアルを行っております。スマートフォンやタブレット端末にも対応した設計としておりますので、是非ご覧ください。

●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
配当金受領株主確定日	毎年3月31日(期末配当)、毎年9月30日(中間配当)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。 フリーダイヤル　0120-244-479 (本店証券代行部) フリーダイヤル　0120-684-479 (大阪証券代行部) <URL>　http://www.tr.mufg.jp/daikou/
公告方法	当社の公告は電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。
単元株式数	100株

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

●株主優待制度について

毎年3月31日現在の株主様に、ココカラファイン、セイジョー、セガミメディクス、ジップドラッグ、ライフォート、スズラン薬局、コダマの各店舗でご利用いただけるお買物優待券を以下の基準により贈呈いたします。

保有株式数	優待内容
100株以上500株未満	お買物優待券 2,000円分
500株以上1,000株未満	お買物優待券 3,000円分
1,000株以上	お買物優待券 5,000円分

なお、株主様のご希望により、「お買物優待券」の全部と引き換えに同等額の「ギフトカタログ」への交換をいたします。

●ご利用方法

当社グループ会社の店舗において、商品の購入代金のお支払いとして、現金との併用または優待券のみのご利用ができます。ただし、調剤診療・介護関連・スポーツ施設に関わるお支払いおよび、酒・タバコ等一部商品にはご利用できません。

みちのく未来基金への寄付につきまして

各店舗でご利用いただいた「お買物優待券」を集計し、総額の10%を当社から「みちのく未来基金」に寄付します。この機会に是非ご利用ください。

※本券の有効期限は平成26年5月31日までです。

株式会社ココカラファイン

〒222-0033　神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目17番6号　Tel.045-548-5929

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

VEGETABLE OIL INK

環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

2013 Business Report

第5期 報告書 2012年4月1日から2013年3月31日まで

ココカラファイン

ココロ、カラダ、ゲンキ。

Corporate Philosophy

人々のココロとカラダの健康を追求し、
地域社会に貢献します。

証券コード：3098

代表取締役社長 塚本 厚志

販売子会社の統合というビッグイベントを終え、本格的な事業拡大のステップへ踏み出します。

Q 2016年売上高5,000億円の目標達成に向け、現在の進捗状況はいかがですか?

当期は期初計画を上回る売上高を確保するなど、中期経営計画の達成に向けては、ここまでのところ順調に推移しています。ただし、現在のスピードでは、これから2016年3月期までの3年間で5,000億円を達成することは難しいと思います。従って、今後はさらに経営スピードを上げ、新規出店、既存店の活性化、M&Aなど具体的な施策を進めることにより、成長を担保していきたいと考えています。

また、当期は販売会社6社(株式会社セイジョー、セガミメディクス株式会社、株式会社ジップドラッグ、株式会社ライフォート、株式会社スズラン薬局、有限会社メディカルインデックス)の統合作業に注力した結果、予定どおり2013年4月には統一基幹システム、統一人事制度の運用が始まり、新しい販売会社として株式会社ココカラファイン ヘルスケアの誕生を迎えることができました。統合に関わる作業には未だ継続中のものもありますが、上期中には統合関連の投資は概ね終了し、効果が顕著に表れると見込んでいます。ブランドロゴの統一を考慮した店舗改装についても、最も効果的にお客様にココカラファインのブランドをアピールできる方法で、順次進めています。

販売会社の統合は「おもてなしNo.1」の実現に至る重要な通過点であり、ここまで着実に辿り着くことができたと感じています。これにより中期経営計画の目標達成に向けた体制づくりが完了したので、今後は、これをベースに事業拡大を加速していきます。

Q ドラッグストアの収益基盤強化の取り組みについてお聞かせください。

既存店の利益率を高め、活性化を図る策として、プライベートブランド(PB=自主企画)商品の開発・拡充を進めています。ベーシックな価格訴求型PBと同時に、お客様の潜在的なニーズに応える付加価値型PBの開発を促進し、ココカラファインにしかない商品の拡大による他社との差別化を図ります。

付加価値型PBでは、化粧品と健康食品のカテゴリーに注力しており、すでに美白・保湿効果のあるスキンケアオイル『VIVCO(ヴィヴコ)』や、吸収率の高い還元型のコエンザイムQ10を素材としたサプリメントを展開中で、いずれも発売以来、販売は順調に伸びています。また、化粧品や健康食品以外の開発についても自社のみならず専門企業との提携の可能性も含め、現在検討中です。

2014年3月期につきましてもPB商品の開発を積極的に進め、売上高に占めるPB商品の比率を現在の約10%から2016年3月期には15%にまで高めることを目標としています。

新規出店については、立地・業態別に「都市型」「住宅地型」「郊外型」「調剤」の4タイプに分類し、どのタイプの出店が相応しいかを判断していくことになります。当社グループの強さが最も発揮できるフォーマットによる出店を増やしていきたいと考えています。

Q 新規事業として推進している介護事業は順調に進んでいますか?

当期は初の試みとして、埼玉県狭山市にサービス付き高齢者向け住宅「ファインケアあおぞら」を開設しました。これを機に、ドラッグストア・調剤薬局と病院など、地域医療との連携が始まっています。

当社ではこのビジネスモデルを「狭山モデル」と呼んでいますが、この「狭山モデル」により今後の当社グループが進める介護事業のスキームが明確になってきたと感じています。今後は他の地域にも導入して検証を進め、早い段階で全国展開につなげたいと考えています。

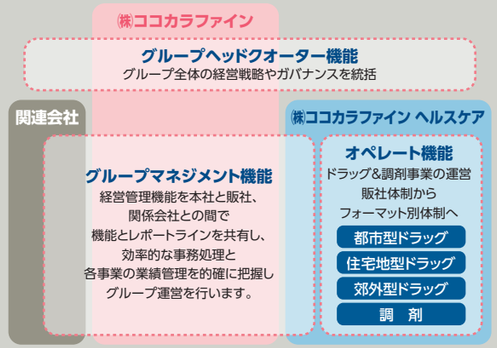
「狭山モデル」により介護事業の収益モデルが確立する

More Information 1 販社統合によりグループ運営基盤を強化

6つの販売会社をひとつに集約し、本社、販売会社、関係会社という3つのプラットフォームで機能を分担することにより、効率的なグループ運営体制を実現しました。

新体制では本社である株式会社ココカラファインがグループ全体の経営戦略やガバナンスの統括を、販売会社である株式会社ココカラファイン ヘルスケアがコア事業であるドラッグ&調剤事業の運営を担い、関係会社はイノベーション部隊として新規事業に取り組みます。

関係会社は、主にPB商品の開発を行う株式会社ココカラファイン ネクスト、介護事業を行う株式会社ファインケア、インターネット販売の株式会社ココカラファインOEC、中国でドラッグストアを運営する可開嘉来(上海)商貿有限公司の4社となっています。



ことで、その後の事業拡大に拍車がかかるものと見込んでいます。

当社グループの使命である「地域のヘルスケアネットワークの構築」という観点から、「衣・食・住・美」の提供に加え、今後は「運動」や「衣類」などの分野での展開が考えられます。

Q 中国をはじめとする東アジア事業は、どのように進める予定ですか?

中国ではすでに2店舗を運営していますが、4〜5店舗ほどの規模になったところで、今後の方向性を判断することになると考えています。その他の地域については、現地企業との提携を中心に幅広く事業領域を設定し、できる範囲でチャンスがあればチャレンジしているという段階です。

海外での取り組みは、今は種をまいている時期で、まだ何が生まれるかは分かりませんが、いずれ競争力のある芽が出てくると思います。10〜20年先の将来には、グループの海外事業比率はかなり高くなっていると想定しています。もちろん、現在すでに進出している地域での事業については、遅くとも2016年までの収益化を目指しています。

Q ココカラファインの株式の魅力、投資するメリットとは何ですか?

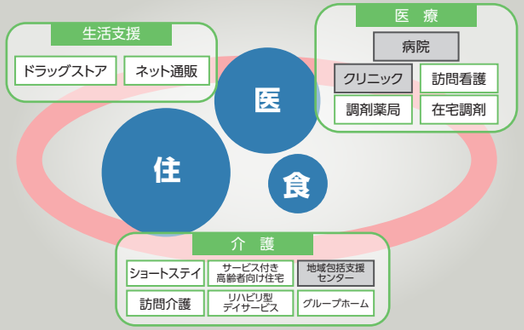
ココカラファインは、ドラッグストア事業の枠を越えたヘルスケア産業をつくるという想いの下、複数の企業が集結し「人々のココロとカラダの健康を追求し、地域社会に貢献する」を理念として設立されました。ここまでも、さまざまな歴史、特長を持つ企業との連携を実現しています。

さまざまな背景・経験を持つ人々がひとつの志で結ばれた、多様性豊かな企業グループこそ、イノベーションを起こし、成長を遂げることができると確信しています。株主の皆様には、ココカラファインの今後の成長性について大いに期待していただきたいと思います。どうぞ、今後とも一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

More Information 2 地域におけるヘルスケアネットワークの構築と事業領域の拡大

「地域におけるヘルスケアネットワークを構築する」ことが、当社グループの社会的使命(ミッション)の1つです。現在ではドラッグストア、調剤、介護の3事業が連携し、さらに病院、訪問看護ステーションなど地域の医療関係機関とのネットワークを構築することにより、地域のお客様のお役に立つ活動に取り組んでいます。

ヘルスケアネットワークには、「ココロとカラダの健康を追求」するために必要な要素である「住宅」「医療」「食事」「美容」「運動」「衣類」などに関わる分野も設定し、すでに自ら展開している「美容」(化粧品開発)、「住宅」(介護事業)に加え、今後は、社外との連携を強化していくことも想定しています。



1. 販売子会社の統合

ココカラファイン

㈱ココカラファイン ヘルスケア

販売子会社を統合し、㈱ココカラファイン ヘルスケアを立ち上げました。この新たな体制により、更なる「おもてなし」を追求し、お客様・患者様にとって身近で重要な役割を果たす新しい医療拠点としての存在意識を高め、ココロとカラダを元気にする「ライフスタイル提案ストア」を構築してまいります。

㈱ファインケア
2012年4月、介護事業を統合し、設立。

㈱ココカラファインOEC
2013年2月、ココカラファインから分社し設立したネット通販子会社。

㈱ココカラファイン ネクスト
商品開発・商品輸出。
2013年4月1日、旧SOファーマから改称。

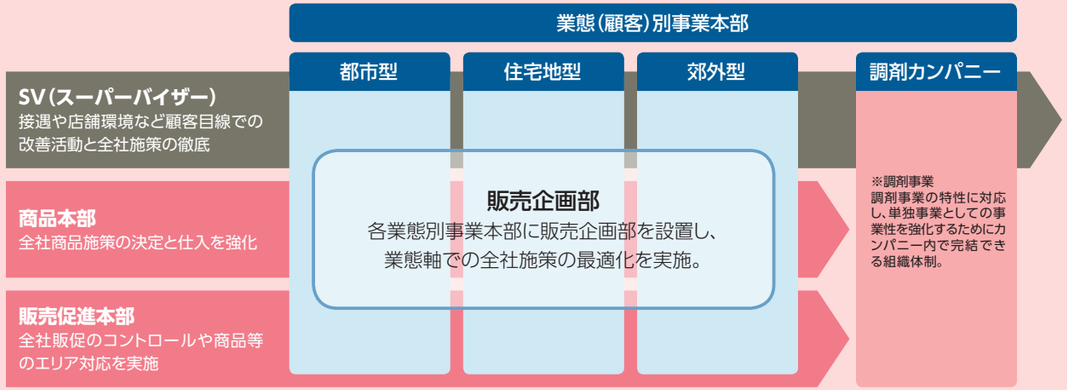
可開嘉来(上海)商貿有限公司
中国現地法人(2012年設立)
日本式ドラッグストア運営。

販売子会社6社が吸収合併

- ㈱セイジョー
- セガミメディクス㈱
- ㈱ジップドラッグ
- ㈱ライフォート
- ㈱スズラン薬局
- (有)メディカルインデックス
- ㈱コダマ (2013年10月に統合予定)

2. ドラッグストア事業戦略

ドラッグストア各店舗を顧客や立地などの指標を基にクラスター分類を行い、業態別3事業部体制をとり、それぞれの業態のベストフォーマットの確立を実施しております。



トピックス Topics

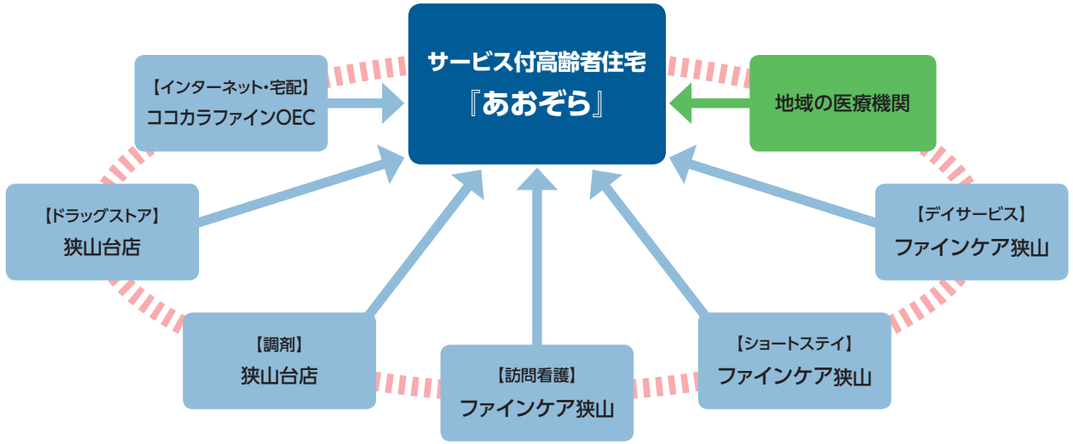
●サービス付き高齢者向け住宅「あおぞら」が埼玉県狭山市にオープン

当社グループ会社である株式会社ファインケアは、埼玉県狭山市にサービス付き高齢者向け住宅『あおぞら』をオープンしました。充実した居住設備に、ヘルパーが365日常駐し、食事も完備しているため利用者は安心して暮らすことができます。

また、高齢者住宅周辺にあるショートステイやデイサービス等の介護施設、ドラッグストアや調剤薬局など当社グループが提供するサービスと地域の医療施設と連携し、地域に今までにない介護サービスを充実させていきます。

高齢者の皆様が安心して暮らせるよう
あおぞらのように澄んだ心でおもてなしいたします。

狭山市におけるヘルスケアネットワーク構築



●ココカラクラブカード発行

ココカラクラブ
cocokara club

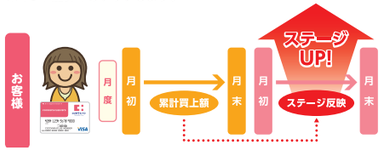
当社は、4月の販売子会社の統合にあわせ「ココカラクラブカード」を発行しました。

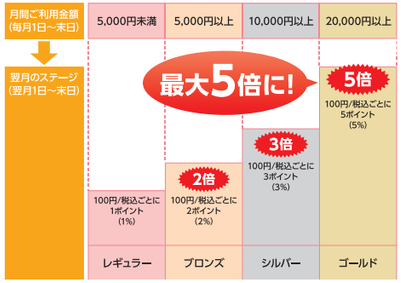
グループ内の会員カードを統合することにより、より魅力的な会員プログラムやポイントサービスのご提供を行ってまいります。

買えば買うほどお得になる「ステージ制度」が全店舗で開始

●月間ご利用金額に応じたポイント加算率。
●カード会員様全員が対象となります。

ココカラファイングループ店舗でのココカラクラブカードの月間ご利用金額に応じて、ココカラポイントの加算率（ステージ）がアップします。
毎月1日～末日までのご利用金額に応じて、翌月のステージが決まり、ポイント加算率がアップします。





●ロゴマークが変わりました

ココカラファイン
ココロ、カラダ、ゲンキ。

企業の象徴であるロゴマークが、これまでの四葉のクローバーから変更となりました。

心地よい安心感を与えるブランドカラー「Cコーラル」で表現されたココカラファインのシンボルマーク「Cコロン」は、ブランドの頭文字の「C」と、“すなわち”をあらわす「:（コロン）」の組み合わせで構成されています。「:」に続くココカラファインが目指す姿を常に思考して、発展し続ける意思を象徴しています。

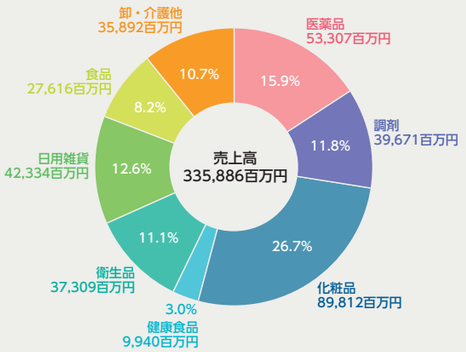
「C」と「:」の間に見える白十字は、医薬品を取り扱う企業として、お客様に約束する安心・安全・信頼を表しています。

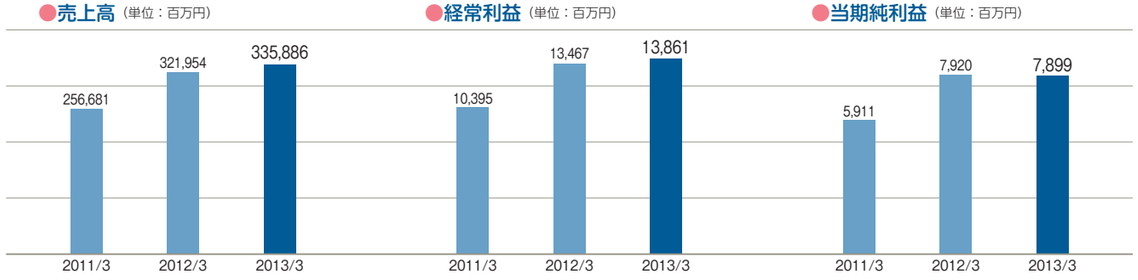
連結財務データ Consolidated Financial Data

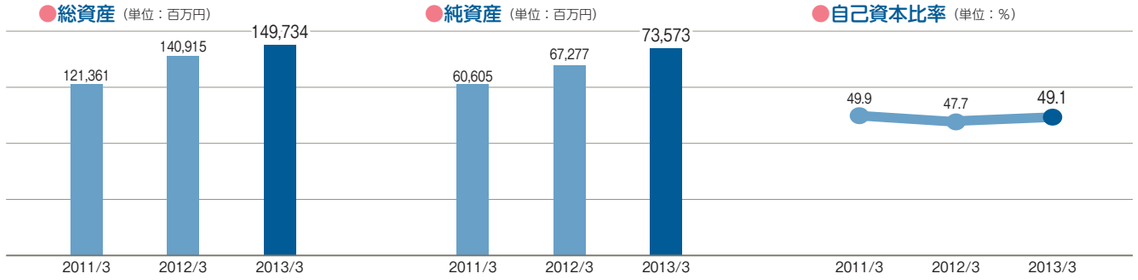
(単位:百万円)	第5期 (2013年3月期)	第4期 (2012年3月期)	第3期 (2011年3月期)	当期のチェックポイント (増減要因等)	第6期 (来期予想)
売上高	335,886	321,954	256,681	㈱コダマの子会社化、㈱ABCドラッグの事業譲受などにより前連結会計年度比13,932百万円の増加となりました。	359,000
売上総利益	85,052	79,486	63,587	粗利を重視した営業施策が寄与し前連結会計年度比5,566百万円増加しました。	—
販売費及び一般管理費	76,451	70,906	57,211	販売子会社の統合に伴う一時費用発生などにより前連結会計年度比5,545百万円の増加となりました。	—
営業利益	8,601	8,579	6,375	販社統合などの一時的な経費発生などにより前連結会計年度比22百万円の増加にとどまりました。	10,000
経常利益	13,861	13,467	10,395	前連結会計年度比394百万円の増加となりました。	14,000
当期純利益	7,899	7,920	5,911	前連結会計年度比21百万円の減少となりました。	8,200
包括利益	7,926	7,943	5,903	前連結会計年度比17百万円の減少となりました。	—
流動資産	88,679	85,692	66,819	たな卸資産の増加などにより、前連結会計年度比2,987百万円の増加となりました。	
固定資産	61,054	55,223	54,541	有形固定資産の増加などにより、前連結会計年度比5,831百万円の増加となりました。	
流動負債	70,638	67,710	53,658	買掛金、短期借入金の増加などにより、前連結会計年度比2,928百万円の増加となりました。	
固定負債	5,522	5,927	7,097	負ののれんの償却などにより、前連結会計年度比405百万円の減少となりました。	
総資産	149,734	140,915	121,361	前連結会計年度比8,819百万円の増加となりました。	
純資産	73,573	67,277	60,605	当期純利益の計上などにより、前連結会計年度比6,297百万円の増加となりました。	
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,012	21,645	8,140	仕入債務の減少、たな卸資産の増加などにより前連結会計年度比11,632百万円の減少となりました。	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,222	△4,916	△4,097	新規出店等による有形固定資産の取得などにより前連結会計年度比1,306百万円の増加となりました。	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,240	△4,553	△3,959	長期借入金の返済による支出、配当金の支払いなどにより前連結会計年度比312百万円の減少となりました。	
現金及び現金同等物の期末残高	24,217	24,637	12,461	前連結会計年度比420百万円の減少となりました。	

商品別売上高

- **医薬品**
  風邪薬をはじめ全般的に不振であったものの花粉関連商材は好調に推移
- **調剤**
  薬価改定の影響があったものの、在宅調剤実績も増加し、好調に推移
- **化粧品**
  中価格帯商品や、ライトカウンセリングによる付加価値型商品の販売が好調
- **その他**
  衛生品・日用雑貨・食品など全般的に底堅く推移
- **卸・介護他**
  主要取引先であった㈱コダマの子会社化に伴い卸業の売上は減少







会社概要/株式情報 Corporate Data/Stock Information

●会社概要

(2013年4月1日現在)

名称	株式会社ココカラファイン
事業内容	ドラッグストアチェーンの運営等を行う子会社およびグループ会社の経営計画・管理・仕入ならびにそれに付随する業務
本社所在地	〒222-0033 横浜市港北区新横浜3丁目17番6号 イノテックビル
設立日	2008年4月1日
資本金	10億円
関係会社	**株式会社ココカラファイン ヘルスケア** **株式会社ファインケア** **株式会社コダマ** **株式会社ココカラファインOEC** **株式会社ココカラファイン ネクスト** **可開嘉来(上海)商貿有限公司**

●役　員

(2013年6月26日現在)

取締役会長	久松　正志	常勤監査役	古松　泰造
代表取締役社長	塚本　厚志	監査役	齊藤　正人
取締役副社長	石橋　一郎	監査役(社外)	亀沖　正典
取締役	橋爪　薫	監査役(社外)	大谷　泰弘
取締役	上原　俊二		
取締役	濱野　和夫		
取締役(社外)	北山　真		

●株式情報

(2013年4月1日現在)

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	25,472,485株
株主数	7,466名

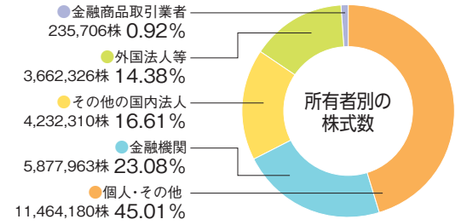
(注)株主数・株式数には自己株式(1名/34,051株)を含んでおります。

大株主

大株主名	持株数(株)	持株比率(%)
齊藤　正人	1,759,248	6.92
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(管理信託口・79208)	1,683,240	6.62
ココカラファイン従業員持株会	1,257,230	4.94
セガミ不動産株式会社	1,135,920	4.47
石橋　一郎	762,600	3.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	630,700	2.48
第一三共ヘルスケア株式会社	605,017	2.38
株式会社三菱東京UFJ銀行	446,848	1.76
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	439,900	1.73
万城目　ひとみ	406,550	1.60
山口　裕子	406,550	1.60

(注)持株比率は自己株式(34,051株)を控除して計算しております。

株式分布状況

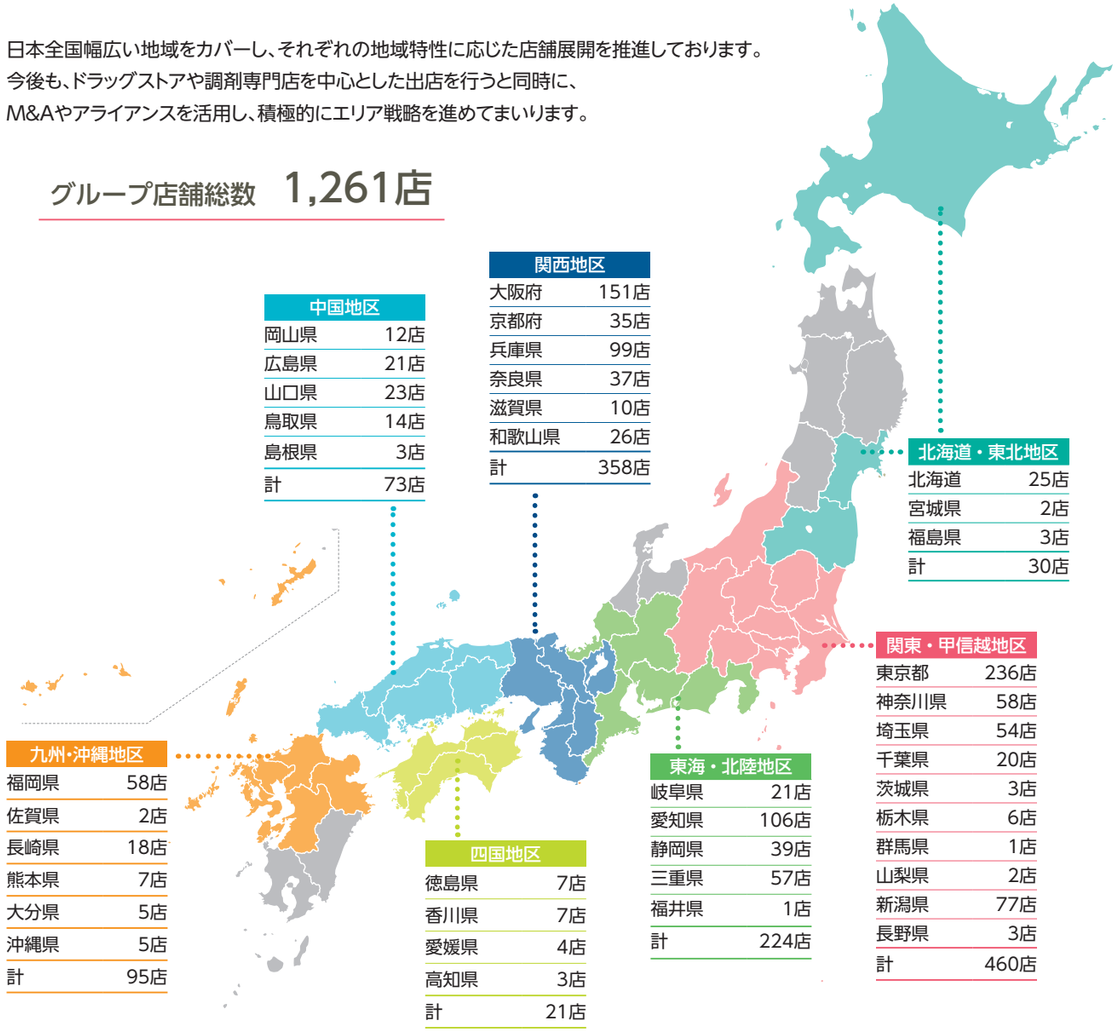


(注)株主数・株式数には自己株式(1名/34,051株)を含んでおります。

店舗のご案内 (2013年3月31日現在) Store Information

日本全国幅広い地域をカバーし、それぞれの地域特性に応じた店舗展開を推進しております。
今後も、ドラッグストアや調剤専門店を中心とした出店を行うと同時に、
M&Aやアライアンスを活用し、積極的にエリア戦略を進めてまいります。

グループ店舗総数　1,261店



中国地区

岡山県	12店
広島県	21店
山口県	23店
鳥取県	14店
島根県	3店
計	73店

関西地区

大阪府	151店
京都府	35店
兵庫県	99店
奈良県	37店
滋賀県	10店
和歌山県	26店
計	358店

北海道・東北地区

北海道	25店
宮城県	2店
福島県	3店
計	30店

関東・甲信越地区

東京都	236店
神奈川県	58店
埼玉県	54店
千葉県	20店
茨城県	3店
栃木県	6店
群馬県	1店
山梨県	2店
新潟県	77店
長野県	3店
計	460店

東海・北陸地区

岐阜県	21店
愛知県	106店
静岡県	39店
三重県	57店
福井県	1店
計	224店

四国地区

徳島県	7店
香川県	7店
愛媛県	4店
高知県	3店
計	21店

九州・沖縄地区

福岡県	58店
佐賀県	2店
長崎県	18店
熊本県	7店
大分県	5店
沖縄県	5店
計	95店